

平成 22 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 カワセコンピュータサプライ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 初山 政彦  
(コード 7851 大証第2部)  
問合せ先 常務取締役 最高財務責任者 川瀬 康平  
(TEL 06-6222-7474)

## 営業外収益並びに営業外費用の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ（非連結）

当社は、平成 23 年 3 月期第 2 四半期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）において営業外収益及び営業外費用を計上することとなりましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外収益の計上及びその内容

当第 2 四半期累計期間におきまして、当社が平成 20 年 8 月に操業開始した千葉県の情報センターにつきまして、千葉県及び佐倉市よりそれぞれ 8 百万円、計 16 百万円の企業立地助成金収入を受け取ることとなり、営業外収益に計上する見込みとなりました。

#### 2. 営業外費用の計上及びその内容

当第 2 四半期累計期間におきまして、当社が保有する投資有価証券の時価下落により、投資有価証券評価損 33 百万円（EB 債）を計上する見込みとなりました。

#### ○ 平成 23 年 3 月期第 2 四半期における投資有価証券評価損

(A) 平成 23 年 3 月期第 2 四半期会計期間（平成 22 年 7 月 1 日から平成 22 年 9 月 30 日）の有価証券評価損の総額（＝イ－ロ）	18 百万円
(イ) 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 9 月 30 日）の有価証券評価損の総額	33 百万円
(ロ) 直前四半期（平成 23 年 3 月期第 1 四半期）累計期間（平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 6 月 30 日）の有価証券評価損の総額	15 百万円

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合（適時開示基準に基づき、経常利益及び当期純利益は最近5事業年度の平均値を記載しています（赤字の事業年度はゼロにて計算））

(B) 平成22年3月期末の純資産額	3,799百万円
(A/B×100)	0.5%
(イ/B×100)	0.9%
(C) 最近5事業年度の経常利益の平均額	85百万円
(A/C×100)	21.5%
(イ/C×100)	39.2%
(D) 最近5事業年度の当期純利益の平均額	46百万円
(A/D×100)	39.4%
(イ/D×100)	72.0%

なお、当四半期会計期間末における投資有価証券評価損につきましては、四半期洗替え法を採用しているため、平成23年3月期の期末日の時価により、評価損の計上額が変動する場合、もしくは評価損を計上しない場合があります。

### 3. 業績予想の修正

平成23年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,783	19	21	17	3 51
今回修正予想 (B)	1,670	△36	△54	△75	△15 70
増減額 (B - A)	△113	△55	△75	△92	—
増減率 (%)	△6.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	1,736	△55	△51	△41	△8 67

平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	3,600	38	44	36	7 44
今回修正予想（B）	3,486	△3	△30	△57	△11 95
増減額（B－A）	△114	△41	△74	△93	－
増減率（％）	△3.2	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 22 年 3 月期）	3,514	△27	△7	△128	△26 56

修正の理由

（第 2 四半期累計期間）

当第 2 四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州に端を発した金融情勢不安等はありませんでしたが、国内景気は着実に自律的回復傾向を続けておりましたが、期間末にかけて減速感が増し、また高失業率が解消しないなど厳しい環境が継続しました。

企業の景況感におきましても、円高やエコカー補助金打ち切りによる反動減等将来に対する不安感が拭えず、低金利ではあるものの積極的な投資に踏み切れない状態が続いております。

ビジネスフォーム業界におきましても、コスト削減による総需要の減少や価格競争の激化等、きわめて厳しい環境が継続しております。

このような環境の中で、当社は、既存取引先の窓口拡大による需要掘り起しや新規取引先の開拓を中心に活動いたしました。

生産部門におきましては、受注量の減少の中でより一層の生産効率の向上や内製化促進によるコスト削減に注力するとともに、新製品の考案活動にも注力いたしました。

以上の結果、業績につきましては、総需要の減少の影響を受け、当第 2 四半期累計期間の売上高は 1,670 百万円、営業損失 36 百万円となる見込みです。経常利益につきましては、営業外収益として企業立地助成金収入 16 百万円がありましたものの、営業外費用として投資有価証券評価損を 33 百万円計上すること等により 54 百万円の経常損失、四半期純利益は 75 百万円の損失となる見込みです。

（通期）

平成 23 年 3 月期の業績見通しにつきましては、売上高は、上期における既存取引先の窓口拡大による需要掘り起しや新規取引先の開拓の効果発現が期待されますものの、上期の減少分を吸収しきれず、現時点では 3,486 百万円を見込んでおります。

利益につきましては、引き続き厳しい価格競争が予想され、売価面では苦戦を強いられることが想定されます。内製化や更なる効率的な生産体制の構築に取り組む中で、現時点では営業損失 3 百万円、経常損失は上期における投資有価証券評価損等の影響もあり 30 百万円、当期純損失は 57 百万円を見込んでおります。

（注）上記の業績予想につきましては、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は今後の様々な要因により業績予想とは異なる可能性があります。

以 上